



評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2016 | 使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 管理棟	階数	地上6F
建設地	名古屋市中村区道下町3丁目35番 他	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	386 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,285 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年12月23日
敷地面積	1,009 m ²	作成者	
建築面積	635 m ²	確認日	2021年12月23日
延床面積	3,154 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.5 ★:S:★★★★★ A:★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★★	☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア=3.4	Q2 サービス性能 Q2のスコア=3.8	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア=4.1
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア=3.1	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア=3.4	LR3 敷地外環境 LR3のスコア=3.2

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
外観は敷地内の他の建物と調和するように白色を基調に選定し、近接している道路に対して上階の外壁面をセットバックさせる等日影や圧迫感の面において近隣住民への配慮を行っている。総合病院内の建物かつ災害拠点病院の建物として適切な耐久性を確保し、地域の防災の拠点として安心感のある建物としている。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
主要な事務室において、天井には岩綿吸音板、床面はタイルカーペットを使用し、吸音性を高める計画とした。また、3階から5階までの西側開口部の外部側にルーバーを設置することで、屋光制御にも配慮した計画とした。	耐久性の高い内装仕上げの採用、重要度係数を1.5と設定する等耐用性に配慮した計画とした。また、1人当たり9m ² 以上の事務空間やリフレッシュコーナーを設ける等機能性や利便性にも配慮した計画とした。	前面道路に対して6階をセットバックし、圧迫感の軽減を行った。また、道路沿いの建物と高さをそろえ、スカイラインが整う計画とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
西側の開口部に日射抑制の外部ルーバーや庇を設ける等建物外皮の熱負荷抑制に配慮した計画とした。	内装仕上げにリサイクル資材の採用や省節水型器具を採用による水資源への配慮などを行う計画とした。	職員専用駐輪場を来院者用駐輪場とは別に設けるや敷地内に廃棄物保管庫があり、平日毎日ごみの回収を実施する等地域環境への配慮や外壁面をセットバックさせ、ルーバー、庇、バルコニーを設置するなど光害に配慮した計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 管理棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.2
LR1	エネルギー	3.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				4.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.2



2. 自然共生

評価点 = 4.1



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。